

成田市バスケットボール協会審判講習会
～公式競技規則の変更（2009年度）～

1. Tシャツの着用
 - いかなる場合もTシャツの着用はできなくなった
2. ジャンプボール・オルタネティブ ポゼション ルール
 - ジャンプボールのあと最初にコート内でボールをコントロールしたチームの相手チーム
3. 24秒オペレータの任務
 - 24秒計をリセットする規定が「ショットされたボールがバスケットに入ったときおよびショットされたボールがリングに触れたとき」から、「ボールがバスケットに入ったときおよびボールがリングに触れたとき」に変更された
4. 8秒ルール（バックパス）：ボールがフロントコートに進められたとは、
 - ボールがそのチームのフロントコートに触れたとき
 - ボールがそのチームのフロントコートに触れているプレイヤーや審判に触れたとき
 - （追加）ドリブルでバックコートからフロントコートへ進めようとしているときは、ドリブラーの両足とボールがフロントコートに触れたとき
 - ただし、この追加の規定は、プレイヤーがドリブルをしている間にだけ適用される
 - ▶ ドリブルをしていたプレイヤーがボールを両手または片手で支え持ったときはドリブルが終わったことになり、従来の規則が適用される
5. バックコートにボールを返すバイオレーション（バックパス）
 - 自チームのフロントコート（相手チームのバックコート）からジャンプして空中であらたにボールをチームコントロールしたプレイヤーがそのボールを持ったまま自チームのバックコートに着地した場合は、そのプレイヤーはボールをバックコートに返すバイオレーションにはならないことが例外規定として追加された
6. アンスポーツマンライクファウル
 - アンスポーツマンライクファウルの判断基準として、相手チームが速攻を出そうとしているとき、その速攻をとめようとして、その攻撃側チームのプレイヤーとバスケットの間に防御側プレイヤーが1人もいない状況で、防御側プレイヤーがその攻撃側プレイヤーに対してうしろからあるいは横から触れ合いを起こしたときは、その触れ合いはアンスポーツマンライクファウルとすることが追加された

7. テクニカルファウル

- プレイヤーがひじを激しく振りまわすことはテクニカルファウルの対象とすることになった
- ひじを振りまわす行為は、相手プレイヤーの重大な負傷につながりかねない非常に危険な行為であり、相手プレイヤーを近寄らせないようにするためあるいは近くにいる相手プレイヤーに危険をもたらすと思われるほどひじを激しく振りまわす行為をしたプレイヤーには、ただちにテクニカルファウルを宣せなければならない
- 激しく振りまわしたひじが、相手チームのプレイヤーと触れ合いを起こした場合は、アンスポーツマンライクファウルかディスクォリファイングファウルなのかについて、適切に判断を下さなければならない